

テーマ4 ワーク・ライフ・バランスの推進

働きながら子育てできる社会（子どもを生き育てやすい環境）を実現するためには、社会全体でワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）に取り組むことが重要です。

しかし、社会全体としてのワーク・ライフ・バランスへの取り組みは、まだ充分とはいえません。

特に考えてほしいポイント

より多くの企業がワーク・ライフ・バランスに取り組んでくれるようにするために、札幌市はどのようなことをすればいいでしょうか。

Dグループは、「テーマ4 ワーク・ライフ・バランスの推進」について話し合いました。

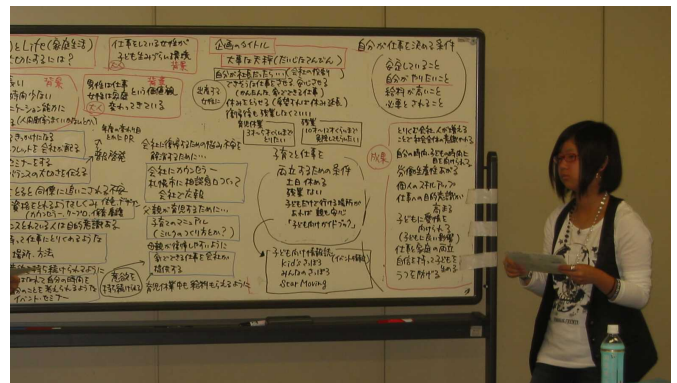
4つのテーマの中では最も難しく、また、他の3つのテーマと異なり、子どもが直接的に体験している内容ではありませんが、札幌市が現在力を入れている基本目標3 - 基本施策1「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の事業を進めるうえで、子どもの視点を取り入れるため、子どもたちに意見交換をしてもらいました。

話し合いに入る前には、言葉の意味やワーク・ライフ・バランスの現状などについて、どのテーマよりも時間をかけて学習しました。また、年齢の低い子は「子どもの視点」から、高校生など年齢の高い子は「自分が就職したとき」の視点、さらには、「自分が企業の経営者だった場合」など、様々な視点からワーク・ライフ・バランスについて考えてくれました。

ワーク・ライフ・バランスについても、環境問題と同様、取り組む会社や人が増えることで、社会全体の意識が変わると考えられるため、企業の経営者などを対象としたセミナーを実施し、ワーク・ライフ・バランスの大切さや効果について周知を図っていくことが重要だとの意見が多く出ました。また、企業側への周知だけでなく、育児休業などを取得する側の不安や悩みの解消が必要であるとの意見も出ました。

なお、企画提案書のタイトルは、仕事と家庭をうまく両立させ、互いに好影響を与え合えるような社会になってほしいという願いを込めて「大事なてんびん」と名付けてくれました。

経営者に向けたセミナーについては、ワーク・ライフ・バランス取組企業応援事業（事業番号 3-1-1）の中で実施していくとともに、この企画提案を参考にしながら、事業内容の充実を図っていきます。



企画提案書

大事なてんびん

背景

子供

親の労働時間長い。

↳ 子供と話す時間が少ない。

子供のコミュニケーション能力に影響がある。

(人間関係がうまくいかなくなる。)

大人

仕事をしている女性が子供を
生みづらい環境。

男性は仕事、女性
は家庭、という価値観

変わってきている。

企画の概要

◎ 子供と話せるきっかけになる
グッズやパンフレットを会社が配る。

◎ 社長を集めてセミナーをする。
ワークライフバランスの大切さを伝える。
(育児休業をとると同様に追いこされる不安など)

◎ 休んでいる間に資格がとれるようなしくみ。
(カウンセラーの資格など)

◎ ワークライフバランスをとれるように目的意識
を持って仕事にとりくめるような情報提供
の場所・方法。

育児休業でも
給料ありに。

◎ 仕事への意欲を持ち続けられるよう
に、母親が育児をはなれて自分の
時間を持てるようなイベント・セミナー

会社に復帰するための不安、悩みを
解消するために...

◎ 会社にカウンセラー。札幌市に相談
窓口をつくらせて会社で広報する。

父親が育児をするために...

◎ 子育てのマニュアル(ミルクの作り方など)

母親が復帰しやすいように...

家でできる仕事を会社が提供する。

成果目標

◎ 人が増えることで社会全体の意識がかわる。

◎ 自分取組む会社やの時間、子供の時間に目を向けられるようになる。

◎ 労働生産性が上がる。

◎ 個人のスキルアップ。
仕事への目的意識が高まるようになる。

◎ 子供に愛情を向けられる。(子供にいい影響)

◎ 仕事と家庭の両立ができる。

◎ 自信を持って子供を生める。うつを防げる。